

マンスリー・トーク(62)

2014.1.1

木村 讀

うまづくし 江戸の初春

皆様、新年あけましておめでとうございます。

今年は、景気のよい午(うま)年、江戸の馬スポットを流してみましよう。

大伝馬町・小伝馬町・馬喰町

大化の改新(645年)による中央集権を機能させるため、全国の街道に宿駅を設け、伝馬を置きました。その交通・物流網は、その後ずっと維持され続けてきました。

徳川時代、お江戸日本橋を五街道の基点とし、そのすぐ近くに大伝馬町、小伝馬町を置き、馬調達の馬喰町もできました。このあたりは、旅や物流の拠点になり、旅籠や、商業の街として賑わい、今ではお馬さんの痕跡も皆無の大繁華街になっています。昔のものといえば、小伝馬町の牢屋敷跡にお寺と公園が残っているくらいなのです。吉田松陰が刑死した碑があります。

昭和の前半ぐらいまでは、街中を馬車が通るのは普通のことでした。私は小学6年前後、函館にいたことがあります。冬、石炭を積んだ馬車が雪の市街地を走っていました。春、雪が溶けると、冬中の道に積もった馬糞が乾いて糞が粉のように風に舞う「馬糞風」にあおられたものです。やがて、車が普及して馬は街からいなくなりました。

太田道灌騎馬像

太田道灌は足利時代、扇谷上杉家の侍大将として、関東一円に武名を轟かせ、江戸城を築城した勇者。



J R 日暮里駅前の道灌騎馬像

戦上手のキレ者だったが、主君に疑われて風呂あ

がりのところを謀殺されてしまい、畳の上では死ねなかったのです。

高田の馬場と穴八幡

山手線の高田馬場駅のあたりは、徳川時代、幕府の馬事練兵場がありました。早稲田の穴八幡神社では、今も流鏝馬の神事が行われています。



穴八幡の流鏝馬騎馬像

高田馬場には、忠臣蔵の堀部安平衛のあだ討ちの話も残っているのです。

有栖川宮熾仁(タリト)親王像

幕末、幕藩体制が崩壊し、薩長土肥の官軍が有栖川宮熾仁親王を総裁として錦の御旗を掲げて、江戸にやってきました。今では、広尾の有栖川宮記念公園に、宮さん宮さんお馬の前にひらひらするのは何じやいな。と唄われた銅像が立っています。



今、お江戸では、馬は銅像で残っているくらいなのです。

さて、ここまで書いたら、年末の競馬の棹尾を飾る有馬記念がありました。そして、栗毛の駿馬オルフェブルが、2位に8馬身もの大差をつけてぶっちぎり勝ちしました。彼はこれで引退するのだが、何やら新年に向けて活気を呼ぶ馬だったかも。